

「室内空気が体に影響する」とは？



室内空気が体に及ぼす悪影響の代表的な例が「シックハウス症候群」です。

シックハウス症候群とは、住宅に使われる建築材料や持ち込まれる家具などから発散する**有害化学物質**によって引き起こされる健康被害の総称です。

ホルムアルデヒド・アセトアルデヒドのアルデヒド類、トルエン・キシレンなどの揮発性有機化合物（VOC）などの化学物質が人間の粘膜を刺激したり神経を傷つけたりすることで様々な症状が引き起こされます。これらの化学物質は常温でも揮発しやすいため、どんどん気化して空気中に放散され、室内の空気を汚していきます。

汚れた空気の中で過ごすということは、化学物質を体内に取り込むことになってしまい、その化学物質によって体に悪い影響が出てしまうおそれがあるのです。“たかが空気”ではなく、健康のためには空気を選ぶことが大切になってきています。



有害化学物質が与える影響

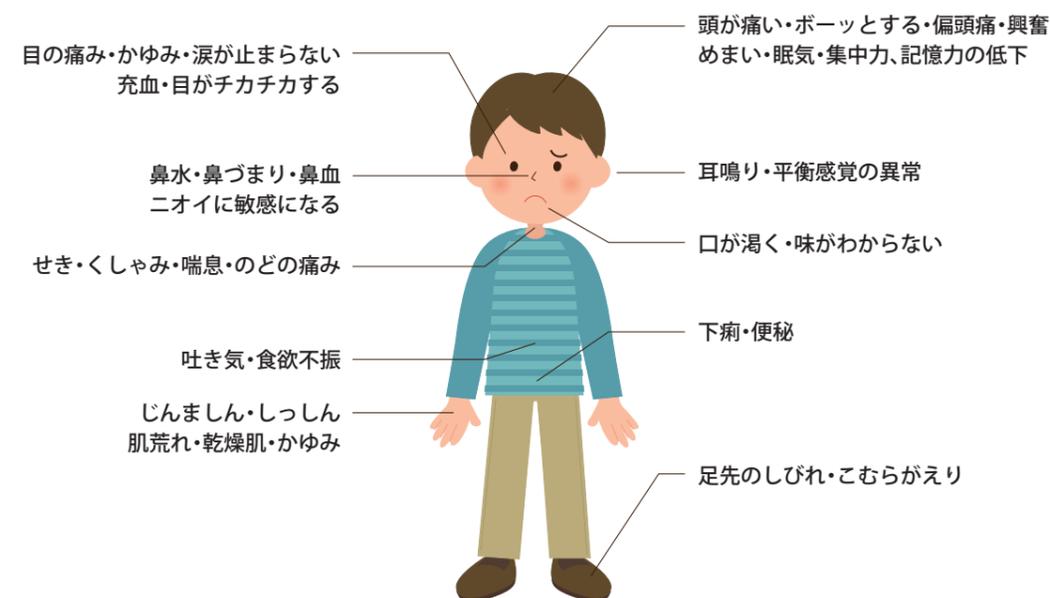


有害化学物質が原因で引き起こされるものとしては、既に挙げた「シックハウス症候群」や、シックハウス症候群よりも激しい症状が出る「**化学物質過敏症**」があり、さらには**アトピー**や**アレルギー**、**喘息**なども有害化学物質がその症状を悪化させる原因のひとつといわれています。

シックハウス症候群



シックハウス症候群の症状は、目の痛みやかゆみ、鼻水、ぜんそくなど非常に多岐に渡り、個人差も大きいです。本人にしか自覚できない症状も多いため、風邪や精神疾患と間違われてしまうこともあります。



化学物質過敏症 (CS = Chemical Sensitivity)



化学物質過敏症は、その名の通り化学物質に対して過敏になり、様々な種類のわずかな量の化学物質に反応してしまうというものです。シックハウス症候群をきっかけに発症することが多く、症状はシックハウス症候群同様に多岐に渡りますが、シックハウス症候群よりも激しく症状が出るのが特徴です。重症化すると仕事や家事などができなくなるなど、日常生活にも大きな影響が出てしまいます。様々な化学物質に反応するため、印刷物が読めなかったり、香水や芳香剤が使えなかったりと、あらゆる場面で症状が出ますが、周囲の人になかなか理解してもらえず悩んでいる方も多くいらっしゃいます。